「主体的に学習に取り組む態度」の評価のあり方
―歴史的分野を例に―

三重大学教職大学院　准教授　久保田 重幸

1. はじめに

中学校社会科においては、今年度、現行学習指導要領全面実施４年目を迎え、「社会的な見方･考え方」を働かせる授業づくりや､「主体的･対話的で深い学び」の視点からの授業改善に対する理解と実践が広がっている。また、旧学習指導要領下において４観点とされていた評価が３観点へと変更されたことについても一定の理解と実践が広がり、浸透しつつある。

本稿では、こうした現状を踏まえながら、改めて原点に立ち返って、「主体的に学習に取り組む態度」の評価のあり方について見直す機会を提示することで、日常の実践を支援したい。

2. 「主体的・対話的で深い学び」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価

まず、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」[i]（以下､「報告」）p.13~14では、「「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくこと」が明記されている。さらに､「報告」p.10では、「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価すること」が、併せて記されている。

また、「報告」p.13では、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する際の留意点として、以下の２点について触れている。

A　児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるように発問を工夫すること。
B　自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を単元や題材などの内容のまとまりの中で設定すること。

これらのことから、「主体的に学習に取り組む態度」の評価においては、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が前提となっており、知識に偏った一斉授業や定期テストによる事後評価のみで、「主体的に学習に取り組む態度」を評価することが難しいことが分かる。ＡおよびＢについての十分な配慮がなされた、問題解決的な学習を綿密に計画し、実現する中で、「主体的に学習に取り組む態度」を評価することが重要であることを確認したい。

3. 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する際に留意したい３つのポイント

次に、中学校社会科において、「主体的に学習に取り組む態度」を実際に評価する際に留意したい３つのポイントについて述べたい。

まず、「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校社会）」[ii]（以下、「参考資料」）p.99では、中学校社会科学習において「「主体的に学習に取り組む態度」を育成し、評価を行う際の留意点」として、以下の３つのポイントを示している。

① 生徒が見通しを立てる機会を設けること
② 生徒が学習を振り返る機会を設けること
③ 教師や他の生徒による評価を生徒に伝えること

特に、「参考資料」p.100では、単元の導入時に立てた学習の「見通し」が学習を振り返る

際の重要な情報になることや、学習を振り返る機会を単元中に適切に設けることが「自らの学びの過程を捉え、自らの学習を調整する機会」につながることを強調している。このことから、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を充実させることは、問題解決的な学習の指導自体を充実させることと「表裏一体の関係」にあることが分かる。

4. 歴史的分野の学習における「主体的に学習に取り組む態度」の評価の実際

本節では、『社会科 中学生の歴史』p.148～209の「第４章 近代国家の歩みと国際社会」における単元学習シート例（以下、単元シート、図）について検討したい。

本単元では、単元を貫く問い（大テーマ）として、「なぜ、日本は近代化に成功したのか？」を設定した。この問いは、日本の「近代化」の世界史的な評価[iii]を踏まえた、「近代」の本質を考えさせる大きな問いであるとともに、いまだ答えの出ていない重要なテーマであることから選択した。単元全体の配当時間を26時限とし、単元シート作成の際には、前節で紹介した３つのポイントについて配慮した。

まず、①については、単元シート上部に、「単元を貫く問い（大テーマ）に対する自分なりの「予想」を記入する」欄を設けた。併せて、「予想した理由」と「解決のために必要な情報とその入手方法」欄を設けた。生徒は、単元の導入時に「予想」を記入することで、その後の単元学習において、毎時限の学びと「予想」を比較することができ、自分の考えの変化や成長に気付きやすくなるとともに、それ以降の学習の「見通し」や学習改善のヒントを得やすくなる。

また、②については、毎時限の振り返りを避け、「節」ごとの振り返りを基本とした。４～５時限を単位とする節の学習末に単元シートに記入できるよう配慮した。

さらに、節の学習末では、「小テーマ学習を通して分かったこと・難しかったこと」について記入する欄だけでなく、「大テーマの解決に向けて参考になったこと」について「予想」と比較しながら記入する欄を設けた。生徒は、節の学習末の振り返りを見返しながら、大テーマ「なぜ、日本は近代化に成功したのか？」に対する自分の考えを記入することが可能となる。

加えて、生徒には、単元全体の振り返りの際に、「初めの「予想」と比べながら（変わった、変わらなかった等）記入する」ことを求めている。生徒自身が「予想」と比較しながら記入することで、教師が、生徒の「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」について評価しやすいよう配慮した。

一方、③については、単元学習において「自らの考えを記述したり話し合ったりする場面」を適切に設定し、評価することが重要となる。具体的には、生徒自身が調べまとめる学習や生徒間グループ協議の時間を設ける中で、「教師や他の生徒による評価を伝える」機会を計画的に確保したい。そして、節の学習末の振り返りの際には、こうした学習で得られた、教師評価や相互評価を参考にしながら、「小テーマ学習を通して分かったこと・難しかったこと」を記入するよう生徒に指導したい。

5. おわりに

このように、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について検討してみると、本観点の評価が、「主体的・対話的で深い学び」を含む問題解決的な学習と密接な関係にあることを改めて実感する。「主体的に学習に取り組む態度」の観点を明確化させながら指導することで、おのずと問題解決的な学習の指導自体をブラッシュアップすることができる。今後も、「指導と評価の一体化」の原則のもと、「評価の充実が指導の充実につながる」ような実践が広がっていくことを期待したい。

〈注〉

i 中央教育審議会　初等中等教育分科会　教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」、2019 年

ii 国立教育政策研究所　教育課程研究センター「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校社会）」、2020 年

iii 坂野潤治・大野健一『明治維新1858-1881』、講談社現代新書、2010 年

図　単元学習シート例

２年歴史的分野「第4章　近代国家の歩みと国際社会」

本単元で考えたい「大テーマ」

なぜ、日本は近代化に成功したのか？

（　　）年（　　）組（　　）番・氏名（　　）

１　学習を始める前に、「大テーマ」に対する自分なりの「予想」を記入しましょう。また「予想した理由」と「解決のために必要な情報とその入手方法」について記入しましょう。

予想			
予想した理由		解決のために必要な情報とその入手方法	

２　「節」の終わりに、振り返りを記入しましょう。

日時	時数	節ごとの「小テーマ」	小テーマ学習を通して分かったこと・難しかったこと	大テーマの解決に向けて参考になったこと	この後、明らかにしたいこと
○/○ ○/○ ・ ・					
○/○ ○/○ ・ ・					
○/○ ○/○ ・ ・					
・					

小テーマは予め書かず、授業者が提示する。例：「近代化」の進展で、欧米諸国の政治や社会はどのように変化したのだろうか。

学習を通して分かったことや難しかったことを記入させる。

単元当初の「予想」と比較しながら書かせる。

授業者は学習の改善に向けた指導助言を行う。

３　「単元全体」の振り返りを記入しましょう。

（１）大テーマ「なぜ、日本は近代化に成功したのか？」に対する自分の考えを記入しましょう。記入する際には、初めの「予想」と比べながら（変わった、変わらなかった等）記入しましょう。また、あなたが、そう考えた理由についても記入しましょう。

（２）本単元の学習を終えて、次の単元「二度の世界大戦と日本」（第５章）でさらに学びたいことについて記入しましょう。

著者紹介　久保田重幸　くぼた・しげゆき
1966年滋賀県生まれ。滋賀大学大学院教育学研究科修士課程修了。修士（教育学）。専攻は、社会科教育、学校改善、教育史。

帝国書院のWebサイトに、上記の単元学習シート例を掲載いたします。